

荒川区教育委員会

教育長 高梨 博和 様

荒川区立第五峡田小学校

校長 出井 玲子

公印

## 学校関係者評価報告書

令和元年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

## 記

## 評価項目1「学校全体の様子」

- ・児童や保護者は、概ね本校の教育目標を理解し、学校生活も生き生きと楽しく送れていると肯定的な評価が90%となっており、昨年度より約10ポイント高くなっている。保護者の否定的な評価も改善され、これまでの取り組みが理解されてきた。
- ・基本的な生活習慣については、児童は80%が身に付いていると感じているが、保護者は75%、教職員は29%となっている。認識に大きく差があり、きまりやルールなどの三者の共通理解が必要である。
- ・児童理解については、昨年度は保護者の否定的な評価が16%だったが、今年度は6%と大きく改善された。しかし不安を抱えた児童も10%ほどいるということで、個に応じた指導やよさを認めた指導を継続的に続けていく。

## 評価項目2「学力向上の取組」

- ・分かる授業や個に応じた指導に対しては、児童も保護者も85%が肯定的な評価をしており、昨年度より評価が高くなっており、算数の習熟別学習など周知できた。これからも授業改善に取り組むとともに、保護者の理解をさらに深めるよう、授業公開などの工夫を行いたい。
- ・学習習慣の取り組みについては、概ね肯定的な評価ではあるが、否定的な評価もあり、特に児童が高くなっている。放課後の補充指導や家庭学習の取り組み指導などを通して、学習習慣の定着を図っていく。
- ・情報教育や学校図書館の活用については、昨年度より肯定的な評価が高くなっている。児童はとても評価が高く、保護者、教職員の順で評価が下がっており、授業の実態・取り組みを保護者への周知、教職員への研修などに取り組んでいく。

## 評価項目3「社会性・人間性の育成」

- ・人権教育、道徳教育についても、昨年度より肯定的な評価が上がっている。特に保護者の評価は10%以上高くなっており、これまで取り組みへの理解が深まっている。これからもさらに深めていきたい。
- ・教育相談については、児童71%、保護者65%、教職員90%と昨年度とほとんど変わらない。児童や保護者が相談できる環境づくりに努めていきたい。
- ・学校行事に対して積極的に取り組む児童が多く、保護者や教職員も肯定的な評価が90%を超えている。今後も学校行事や体験活動をさらに充実させていく。
- ・自治的な活動については、昨年度より評価が少し下がっている。低・中学年の学級指導を充実させ、高学年で活躍できるような素地を養い、自治的な活動を活発にしていく。

#### 評価項目4「保護者・地域との連携」

- ・情報発信への保護者の理解は高く、情報配信メールでの細やかな連絡や学校ホームページの充実が評価されていると思う。
- ・相談への対応については、教職員100%に対して、児童、保護者には15%ほど否定的な評価をしている。個人面談、保護者会などでの丁寧な対応や児童の相談しやすい環境を整備していきたい。
- ・毎月の土曜授業公開には多くの保護者や地域の方の参観があった。今後も指導の工夫を図り、児童の活躍が見られる授業を公開していく。
- ・多くの児童が地域の行事に積極的に参加している。教職員の意識も高いが、働き方改革もあるので、保護者に理解いただけるようにしたい。

#### 評価項目5「特色ある教育活動」

- ・家庭との連携、コミュニケーション活動、外部人材・体験的活動については、教職員はほぼ100%であるのに対し、児童・保護者の多くは肯定的な評価はしているが、15%程度が分からないと回答している。保護者への理解を高めるに、参加を呼びかけたり、取り組みの様子を知らせたり工夫が必要である。
- ・生活指導については、児童・保護者と教職員の意識の差が大きくなっている。地域・保護者との連携を深め、児童を育てる環境づくりを行っていく。
- ・外部人材を活用して地域や伝統文化を学んだり、校外学習を行ったりしているおり、児童は80%、保護者78%、概ね肯定的に受け止めているが、教職員ではやや否定的な評価も見られる。ねらいを明確にし、系統的に学習できるようなカリキュラムマネジメントが必要である。

#### 評価結果を受けての学校の改善方針

- ・保護者からどの項目についても「概ね良好」という評価を得ており、昨年度より評価も上がっているが、若干のC評価、D評価があり、それを改善していくことが全般的な改善方針となる。
- ・学校全体の様子からは、特に児童全員が明るく元気で生き生きと生活が送れるよう、教育環境を整え、教師が児童理解を図りながら児童相互の人間関係を築いていかなければならない。児童全員の評価がA評価またはB評価になるように努めていく。
- ・学力向上の取り組みについては、引き続きわかる授業を前提とした授業改善に取り組んでいかなければならない。発展学習の充実と言語能力の育成を中心に研究活動を通して児童の学力向上を推進していく。
- ・社会性、人間性の育成については、道徳教育の充実を通して、特に人権意識や生活規範を身に付けさせたい。道徳の授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面を指導の場と考え、教職員が同じ価値観をもって指導を続けていく。
- ・保護者・地域との連携については、学校の教育活動を情報発信し、相互の理解を深めていくことが引き続き課題である。児童が地域の行事等に積極的に参加できるように働きかけるとともに、教職員も地域の力となれるようにしていきたい。
- ・学校の特色ある教育活動では、人材活用を充実させ、学びの質を高めた活動を展開していく。